

本資料は、京都市教育の主な取組を掲載した「京都市の教育改革」冊子の一部を抜粋したものです。STEAMを構成する要素が色濃く表れている取組等には赤色の囲みを施しています。

市民ぐるみ・地域ぐるみで進める

京都市の 教育改革

目指す子ども像

伝統と文化を受け継ぎ、
次代と自らの未来を
創造する子ども

「番組小学校」創設の精神を今に、未来へ

京都は幕末から明治にかけ、人口が激減するという衰退の危機を迎えました。この時、京都の町衆は、「まちづくりは人づくりから」と子どものいるいないにかかわらず、竈のある家はすべて「竈金(かまどきん)」と呼ばれるお金を出し合い、地域の子どもたちが学ぶことができる64の小学校を創設し、運営を担いました。この日本最初の地域制小学校である「番組小学校」が誕生したのは、明治5(1872)年の国の学制発布に先立つ、明治2(1869)年のことです。以来、本市では、こうした歴史と伝統を礎に、子どもを社会全体で温かく育み、市民ぐるみ・地域ぐるみの教育を推進してきました。

今、「誰一人取り残さない」ことを誓い、2030年までに持続可能な社会を目指す国際目標SDGsの実現に向けた取組が、あらゆる分野で進められており、よりよい人生や社会の創り手を育む「教育」の果たす役割にも、大きな期待が寄せられています。

先人たちの伝統と進取の気風で培われてきた「はぐくみ文化」の下、本市ならではの有形無形の優れた文化が有する多様な価値をはじめ、環境共生や脱炭素、デジタル化などの新たな時代の潮流も強みにしながら、SDGsを羅針盤に、「一人一人の子どもを徹底的に大切に」本市教育の歩みを、さらに確かなものにしてまいります。

京都市教育委員会

※冊子に記載の数値は、令和6年度実績です。

※「小学校」または「(小)」等の表記がある場合には「小中学校(前期課程)」を、「中学校」または「(中)」等の表記がある場合には「小中学校(後期課程)」を含みます。

幼児教育と子育て支援の充実

「主体的に学び、考え、工夫する力」や
「他者と協働的に行う力」を遊びの中で育む市立幼稚園



市立幼稚園の特色

- **主体的な遊び、発達にふさわしい生活、豊かな体験活動を大切にしています。**
 - 興味・関心に基づいた直接的な体験や友達と十分に関わることを大切にし、夢中で遊び「感じる・考える・気付く・表現する」等の資質・能力の基礎を育みます。
 - 小学校期の学びにつなぐ「学びに向かう力」を育みます。
 - 生きる力の基盤となる基本的な生活習慣を身につけることで自立し、自信を高め、自己発揮と自己抑制の調和のとれた自律性(折り合う心)を育みます。
 - 京都の伝統文化体験や季節の節目が感じられる保育(祭り・茶道体験・節分等)、自然を味わう園外保育(京都御苑・大文字山等)や飼育・栽培活動などを大切にしています。
- **未就園児(0歳児～)の子育て支援事業・子育て相談、預かり保育を実施しています。**
 - 地域の子どもと親同士を繋ぐ子育て支援事業の実施や子育て相談の場を提供しています。スクールカウンセラーも巡回しています。
 - 全園で長期休業期間中を含む平日の早朝及び18時まで、預かり保育を実施しています。
- **「幼保小の架け橋プログラム」など小学校との連携・接続の積極的な推進、幼児教育の研究発信に努めています。**

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を小学校の先生と共有するなど、子ども同士の交流、先生同士の連携、カリキュラムの接続に取り組み、各校園が相互関係を深め、教育・保育の質の向上を目指しています。また、幼児教育に関する研究を進め、公開保育・研究発表会の場で研究成果を広く発信しています。
- **社会生活とのかかわりを広げ、家庭や地域の方々と連携しています。**

幼児の生活をより豊かなものにするため、家庭や学校運営協議会などの地域の方々と連携しています。



市立幼稚園
ホームページ



私立幼稚園に対する支援

- 市内幼稚園児の9割以上が通う私立幼稚園に対し、各園の特色ある教育活動、預かり保育、障害のある幼児に対する教育の推進などへの助成を行っています。
- 市内のほぼすべての私立幼稚園で、園庭等の開放を行ったり、保護者の子育てに関する相談を受けるなど、幼児の体験活動や保護者の子育てを支援しています。



子育て支援の充実

- こどもみらい館では、親子で遊べる「こども元気ランド」や「子育て図書館」、子育て相談や子育てサークルの情報発信など、乳幼児の子育てをあらゆる角度から支援しています。
- 妊娠期から思春期までの子どもを持つ保護者同士が、子育てをする中で感じている不安や悩みなどを語り合う、親支援プログラム「ほっこり子育てひろば」を実施しています。
- 児童館・乳幼児親子のつどいの広場といった地域子育て支援拠点等において、親子の居場所づくり、各種相談受付等の子育て支援、幼児・保護者同士の交流の場・機会の提供などを実施しています。



子育て支援ポータルサイト

はぐくもKYOTO

子育てのイベントや市の施策をPC・スマホで簡単入手!



市民と共に進める

京都ならではの 伝統文化教育・体験

令和5年3月の文化庁の京都移転も契機に、「世界文化自由都市・京都」ならではの伝統文化教育や体験活動を行っています。



「ほんもの」の伝統文化に触れ、豊かな人間性を育むとともに、次代の「担い手」「支え手」の育成を進めます。

● 茶道・華道体験の全校実施

- 小・中・高校で全ての児童生徒が茶道(小・高)・華道(中)を体験。



茶道体験

● 伝統文化体験の充実

- 外部機関と連携し、園児が伝統文化や伝統産業にふれる活動を実施。
- 小・中・総合支援学校へ和装・日本舞踊・能楽などの専門家を派遣。
- 「古典の日記念 京都市平安京創生館」(京都市生涯学習総合センター1階)では、ボランティアの解説により、平安京復元模型を基に、当時の様子を体感する学習を実施。
- 市立高校生の希望者に、妙心寺での坐禅体験会、金剛能楽堂での能楽鑑賞会を実施。

● 歴史都市・京都から学ぶジュニア京都検定

京都の伝統と文化を次代へ継承し、その魅力を発信できる子どもたちを育むため、独自テキストを小学4年生全員に配布。小学5年生に「基礎コース」、6年生に「発展コース」を実施するとともに、京都ならではの多彩な体験活動を実施。

また、「ジュニア京都検定」で育んだ興味・関心・知識をさらに深めるため、市内在住・府内在学の中高生を対象に「京都・観光文化検定試験(3級)」(主催:京都商工会議所)に無償でチャレンジできる機会を提供しています。

DO YOU KYOTO? 環境モデル都市・京都での取組

2050年二酸化炭素排出量正味ゼロに向けた「1.5°Cを目指す京都アピール」発信の地として、環境共生・脱炭素社会を支える担い手を育成しています。



● 環境にやさしい学校

全小・中学校でのSDGsの視点を盛り込んだ「新・環境宣言」やKES学校版(環境にやさしい学校)の全校認証を踏まえ、節電・節水、清掃活動などの取組を進めています。また、小学校では「こどもエコライフチャレンジ推進事業」や環境学習施設での体験学習に取り組んでいます。



南部クリーンセンター
環境学習施設
「さすてな京都」での学習

● 企業等による環境学習事業

京都商工会議所を通じて多くの企業に協力いただき、自社の環境技術や環境問題への取組をテーマとした授業を学校で実施いただいています。

「支え」「守り」「高める」 ボランティアの方々の活躍



● わたしたちの新しい先生 (学校支援ボランティア事業)

伝統文化・芸術・スポーツ等、様々な分野の豊富な知識や技能をもつ多くの方々に、子どもたちの教育活動がより豊かなものとなるようゲストティーチャーとして体験学習を支援いただいています(登録者数約900名)。

● 大学のまち京都で活躍する「学生ボランティア」

全国の143大学等との連携の下、教員を目指す学生や専門的知識・技能をもつ学生(約1,500名)が学校・幼稚園で授業や部活動など様々な教育活動を支援しています。



学生ボランティアによる支援

● 見守り隊

全小学校区で、約2万人の保護者や地域の方、学生、地元企業の方々に、通学路などで、登下校中の子どもたちの安全確保のための活動を日々展開していただいています。



産・学・公連携による取組

伝統産業から先端産業まで、様々な企業や多くの大学が所在する「京都の特色」を最大限活かし、産学公が連携した教育にも取り組んでいます。

● 京都教育懇話会

企業・大学・行政や市民等が集い、次代を担う「人づくり」について、様々な視点から議論を深め、新たな次世代教育モデル創造に向け、学び、研鑽し、そして、フォーラム等を通じて広く提言・情報発信しています。

● 京都芸術教育コンソーシアム

京都・滋賀の芸術系大学、京都市京セラ美術館等が参画する「京都芸術教育コンソーシアム～Art-e Kyoto(アルテ京都)～」では、豊かな創造性や表現力を育む芸術を軸とした教科横断的な学びなど、特色ある取組を進めています。

● 演劇教育

子どもたちのコミュニケーション能力や非認知能力の更なる向上のため、演劇の専門家の助言も得ながら、小・中学校において「演劇的手法を用いたワークショップ」を取り入れた授業などに取り組んでいます。

京都ならではの教育改革

興味・関心をのぼす 体験・学びの場

地域、企業、NPO等と連携の下、生活の中に伝統や文化が息づくなどの京都ならではの強みも生かしながら、子どもたちが、多様な体験活動等とおして社会や世界への興味関心を高め、夢中になって学ぶことができる環境づくりを推進しています。

● 社会に開かれた教育活動推進事業

地域、企業、NPO等との繋がりの中で、子ども達が多様な経験を通して学びを広げたり、学びを通じて得たことを社会に活かそうとする姿勢を育むために、学校運営協議会や保護者・地域等の協力の下、創意工夫を凝らした体験活動を支援しています。

● 宿泊学習・自然体験

小学5年生での「花背山の家」等における宿泊学習等を中心に、自然の中で集団活動等を行うことで、豊かな人間性を育みます。



● 大人みんなが子どもたちの学び育ちのために！ 「あつまれ！京（みやこ）わくわくのトビラ」

京都市内の未就学児や小・中学生及びその保護者に企業や大学、NPO等が実施する文化芸術・自然科学・スポーツ等の年間約3,000件の体験活動を、ホームページ及び広報紙で発信しています。



教育のデジタル・トランス フォーメーション(DX)に向けた取組

教育の情報化の観点から目指す子ども・教職員の姿や取組の道筋をまとめた「KYOTO×教育DXビジョン」を策定(令和5~7年度)。

一人一台端末等のICTを活用した学びを効果的に組み合わせ、全ての学習の基盤となる情報活用能力をはじめとする子どもの資質・能力の育成を図っています。

● ICTの活用を通じた学習活動の充実と学校への支援

子ども一人一人が、自分らしい学びを実現するために「主体的・対話的で深い学び」の視点に基づいた授業改善を行うことが重要です。そのために、学校では一つのデータを子どもたちが同時に編集できる機能を用いて、画面上で自分以外の意見と比較し、考えを深める授業の実践や端末を活用した家庭学習など、ICTを効果的に活用しています。

また、そうした取組を支援するために、学校のICTに関する困りをワンストップで受け付ける相談窓口(サポートデスク)を設置するとともに、ICT支援員が各学校を定期的に訪問し、学校現場でのICTを活用した積極的なチャレンジをきめ細かくサポートしています。

● デジタル社会の善き担い手の育成に向けた取組

社会のデジタル化が急速に進む中、デジタル技術の強みを正しく理解し、適切に活用しながら社会に参画しようとする姿勢や必要な力を育むデジタルシティズンシップ教育の理念を踏まえた取組を進めています。

● 誰一人取り残されない、個に応じた指導・支援の充実

子どもの障害や特性に応じた機器やアプリケーションの柔軟な活用、不登校の子どもへのオンラインでの支援など、ICTを積極的に活用し、誰一人取り残されない、個に応じた指導・支援の充実を図っています。

京都ならではの食育

● 食文化を継承する京都ならではの小学校給食

にしんなど、おからなど京都で受け継がれてきた伝統食や京野菜を取り入れた地産地消(知産知消)の献立、節分やひな祭りなど伝統行事にちなんだ献立、「だし」のうまみを味わえる献立など、給食回数の約6割で和食の献立を提供しています。

また、「和食」がユネスコの無形文化遺産に認定されたことを契機に、月1回程度「和食推進の日」を設定し、和食の特色を味わう「和(なごみ)献立」を実施するなど、給食を通して日本の伝統的な食文化を学ぶことを推進しています。

● 中学校給食の充実

現在実施している選択制中学校給食については、温かいメニューの開発や地産地消の推進などによる献立の充実、生徒から募集したレシピを実際に献立として提供する「中学校給食レシピアイデア募集」の実施など、全校設置の食教育主任を中心に、給食を「生きた教材」として活用した食育の推進等に取り組んでいます。また、給食センター方式を中心とした、食缶方式による温かい全員制中学校給食の実施に向けた取組を進めています。



給食時間

● 味覚を育てる手作りの献立

具から作るがんもどきや春巻き、ルーから作るカレーなど、素材の味を生かし、味覚を育てる手作りにこだわった給食を提供しています。

● プロから学ぶ食育

食の生産、流通、販売や食育に携わる関係機関との協働の下、小学生では「だし」のうまみや旬の食材の調理などを通して「京の食文化」を学び、中学校では、シェフの指導による調理実習を行っています。



和食の料理人による食育授業

● 栄養教諭の全校配置

食物アレルギーへの対応や食育の充実に向け、全ての小学校に栄養教諭(兼務)を配置しています。

「地元主導」で取り組む学校統合 新しい時代を創造する学校づくり

児童生徒数が減少している地域では、保護者や地域の方々や学校などが協働し、子どもたちのより良い教育環境づくりに向け学校統合を推進しています。

これまでに105の学校・幼稚園を29校園に統合し、充実した教育環境を実現しています。



令和7年4月開校
洛西陵明小中学校

令和7年4月開校
栄桜小中学校

子どもたちのかけがえない命を 守りきる取組

事故の未然防止と緊急時の対応に適切に取り組めるよう、教職員一人一人の対応力と学校全体としての組織力を高めるため、「HANAモデル」と称する命を守りきる取組を全市で実施するなど、学校安全体制の確保に取り組んでいます。

また、子どもたちが生涯を通じて安全で活力のある生活を送ることができるよう、家庭、地域、関係機関等との連携の下、防犯、交通安全、防災に関する安全教育を推進しています。

小・中学校9年間

校種間連携の推進 「9年間の明確な教育目標」「系統的なカリキュラム」「継続性・一貫性のある指導体制」

- 小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、義務教育9年間を通した子どもたちの豊かな「学び」と「育ち」に向けて、小中一貫教育を全市で実践しています。また、9年間の学びと育ちを一つの学校として支える「義務教育学校」を10校設置しています。
- 授業や学校行事等で、異年齢の交流ができるカリキュラムを設定することで、子どもたちがお互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育んだり、小学校と中学校の教職員が互いに授業や教育内容を学び合って指導力を高めたりするなど、義務教育9年間を見通した切れ目ない取組を進めています。
- 小学校等において、幼稚園・保育園(所)・認定こども園等の就学前施設との連携のもと、架け橋期(5歳児から小学校1年生の2年間)の教育の充実を図るため、半日入学を含むスタートカリキュラムの充実や子ども同士の交流活動、授業改善など、各校の実態に即した「幼保小の架け橋プログラム」に取り組んでいます。



体育大会で小学生と一緒に競技する中学生

学力向上に向けた取組

● 京都市小中一貫学習支援プログラム

自学自習の習慣化と確かな学力の定着を図るため、予習⇒確認テスト⇒復習を1サイクルとした、小中一貫の学習支援プログラムを小学4年生から中学3年生の間に計13回実施しています。

● 自学自習のすすめ

「学びの基本」や「家庭での学習習慣を身につけるためのヒント」を示した「自学自習のすすめ」を小・中・総合支援学校に配布。日々の授業や京都市小中一貫学習支援プログラムと連動した家庭学習を促し、自学自習の習慣化を図ります。



● 教育ICT化の推進による学びの充実

- 一人一台端末などを積極的に活用し、「デジタルドリル」による習熟度及び自らのペースに応じた「個別最適化学び」や、「授業支援ソフト」による自らの考えを効率的・効果的に他者と共有し発展させる「協働的な学び」など、ICTの活用を通した子どもの学習活動の充実を図っています。
- 一人一台端末の日常的な活用や、発達段階に応じた系統的なプログラミング教育の実施等を通して、子どもたちが情報を主体的に捉え、活用し、多様な他者と協働しながら新たな問題を発見・解決していくために必要な情報活用能力の育成を図っています。



タブレット端末を活用した学習

グローバルコミュニケーション力の育成

歴史都市・京都の魅力や子どもたちが自らの考えを世界に発信できる英語力の育成を進めています。

● グローバルコミュニケーション力育成プロジェクト

- 全小・中学校にALTを配置し、英語によるコミュニケーション能力の向上とともに、異文化理解・国際理解教育を進めています。
- 小学校では、1・2年生から英語活動を実施する等、国が定める標準を超えて外国語教育の充実を図っています。中学校では、英語4技能の確実な育成とともに、ALTを活用したパフォーマンス評価の実施等、新たな授業手法の研究のほか、外部試験費用の補助による学習意欲の醸成を進めています。
- 義務教育学校9年間を通じた実践的英語力の育成のため、ICT・副教材を活用した授業づくりや、授業外でALTとゲームやフリートークを楽しむ「English Cafe」などにも取り組んでいます。



英語による読み聞かせ

理科・科学好きな子どもを育てる

● 青少年科学センターでの学習

- 全市立学校の子どもたちを対象に実験室やプラネタリウム、展示場等を利用した理科学習を実施しています。
- 地球環境について立体的・視覚的に学べる「みらい地球儀」をはじめとする展示品の大学と協働した整備、先端技術を有する企業からの体験型展示品を活用した特別展や地域の企業との連携・支援に基づく展示品の更新、イベント開催、プラネタリウムの活用等、科学への関心や探究心を育む場として環境の充実に努めています。
- 自由研究の相談会やサイエンスコンテストを通して子どもたちの探究心をサポートしています。

● 未来のサイエンティスト養成事業

専門的な助言を受けながら自分の関心のあるテーマを研究したり、企業や大学等の実験教室に参加するなど、多くの機関と連携して、科学の不思議や面白さを体感できる機会を設けています。

● STEAM教育充実に向けた調査研究

伝統産業等をはじめとする文化的要素も取り入れた、京都ならではのSTEAM教育の充実に向け、有識者や市民代表等と科学センターの「使命」や「あるべき姿」について議論するとともに、教育環境充実に向けた調査・研究を進めます。



の学びと育ち

道徳教育の充実

● 「考え・議論する道徳」の実現

「京都市道徳教育振興市民会議」の提言(平成16年)を踏まえた、学校・家庭・地域が一体となった「開かれた道徳教育」を推進しています。

- 全小・中学校で、「道徳教育推進教師」を配置し、6月・10月を「道徳教育推進月間」として全学級で公開授業を実施しています。また、本市独自の指導計画や京都ゆかりの地域行事等を題材とした指導資料集の作成・活用も進めています。
- 道徳教育を通じて獲得できるコミュニケーションや思いやり等の非認知能力は、「生きる土台となる力」「生涯の学びを支える力」に深く関わることから、子どもたちが、道徳的課題を自分ごととしてとらえ向き合い、非認知能力の向上にも繋げられるよう、「考え・議論する道徳」に向けた取組の充実を図っています。

社会的・職業的自立に向けた 生き方探究教育(キャリア教育)

● 京都まなびの街生き方探究館

企業などの協力を得て、社会との関わりの中で自分らしい生き方を考える様々な体験学習を提供しています。

● 京都モノづくりの殿堂・工房学習(小学生)

調べ学習や制作活動を通じてモノづくりを担う人々の情熱に触れ、興味関心を育み、夢に向かう意欲を醸成しています。

● 「わくわくWORK LAND」(小学生)・「ジョイJOB LAND」(中学生)

小学生が模擬店舗での販売や新たな商品企画の仕事に取り組んだり、中学生が企業が直面する業務課題の解決策をまとめる実践体験等に取り組む体験型の学習プログラムを通じて、変化の激しい未来社会で必要な力を育てています。



京都モノづくりの殿堂・
工房学習



わくわくWORK LAND

● 生き方探究・チャレンジ体験(中学生)

例年、3,000を超える事業所等の御協力の下、中学生が、3～5日間の職業体験・勤労体験活動を行っています。

● 社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力の育成

「生き方探究パスポート」(京都市版「キャリア・パスポート」)を活用し、小学校から高校まで継続的かつ系統的な生き方探究教育の充実を目指しています。また、成年年齢の引き下げを踏まえ、自立した市民の育成に向け、政治的教養を育む教育(主権者教育)と関連付けた指導案集や独自の消費者教育教材を作成・活用しています。

学習環境の整備

● バリアフリー化の推進

子どもの学習・生活の場、地域の活動拠点・避難所としてのバリアフリー環境の向上に向けて、スロープ等による段差解消をはじめ、今後一層の整備を進めます。

● 普通教室等の空調更新・学校体育館の空調整備

設置から約20年が経過した普通教室等の空調更新とともに、熱中症対策や避難所環境向上の観点から学校体育館への空調整備を計画的に進めています。

● 学校図書館の充実～第4次子ども読書活動推進計画～

- 全ての小・中学校に学校司書を配置し、読書活動の推進や、授業での学校図書館の活用を進めています。
- 学校図書館への新聞の複数紙配備(小2紙、中3紙、高5紙)を実施しています。

不登校や困りを抱えた児童生徒の 心の居場所づくりと支援

● こども相談センターパトナ

子どもたちの不安や悩み、保護者の心配や気配りの相談等について、50人を超えるカウンセラー等が相談に応じています。



こども相談センターパトナ

● 不登校児童生徒の学びと育ちの場

- 国の不登校対策「COCOLOプラン」を踏まえ、登校を望んでいる児童生徒が不登校にならないよう、誰もが安心して学べる魅力ある学校づくりの充実に取り組んでいます。
- 独自のカリキュラムで学ぶ学びの多様な学校として、「洛風中学校」「洛友中学校」の2校を設置。また、「洛友中学校」では様々な事情により義務教育を修了できなかった方等への教育保障を行う夜間部を設置し、学びの機会の確保に努めています。
- 市内5か所と3つのサテライトを設置する「ふれあいの杜」学習室では、学習支援やスポーツ、創作活動など、個々の状況に応じた支援に取り組んでいます。
- 教室に入りづらい児童生徒が安心して過ごせる「校内サポートルーム」の整備推進や、オンライン上の居場所づくり(メタバース)等、学校内外における多様な居場所づくりに取り組んでいます。

● スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの配置

臨床心理の専門職であるスクールカウンセラーを全校に、さらには社会福祉等の専門職であるスクールソーシャルワーカーを全中学校区に配置しています。

● 子どもや子育てに関する多様な相談窓口

こども相談24時間ホットライン(短縮ダイヤル#7333)、いじめメール相談、SNSを活用した相談など、子どもや子育てに関する多様な相談窓口を設けています。

こども相談24時間ホットライン

#7333

ダイヤル回数、相談が無料 ※075-351-7334にのりかえ

受付:24時間0時
年中無休

● ヤングケアラーへの支援

京都市ケアラーに対する支援の推進に関する条例に基づき、ヤングケアラーの把握や学校生活への配慮、支援に向けて、関係機関との連携に努めます。

健やかな体づくり

● 体力向上に向けた取組

児童生徒の「新体力テスト」結果を踏まえた各校独自の体力向上の取組を実施しています。また、端末を用いて、市内の参加校同士で同一種目を競い合える「スポーツチャレンジ大会」等、ICTを活用した取組も進めています。

● 京キッズRUN

大文字駅伝に代わる取組として、市内の小学6年生が1,000mの持久走に挑戦しています。



京キッズRUN 本大会

● 部活動の地域展開

- 子どもたちがスポーツ・文化芸術活動に触れられる豊かな環境づくりを目指して、部活動地域展開に向けた取組を推進しています。令和10年度以降は、中学校の部活動を廃止し、学校管理外の「地域クラブ活動」を創設した上で、学校管理内の「放課後活動」を実施する方向で検討を進めています。
- 令和6年度は実践研究として、近接する学校が合同で部活動を行うエリア制合同部活動や、大学と連携し、専門的指導ができる学生を顧問の補助として派遣いただく取組等を58の部で実施しています。



● 子どもの健全育成に向けた取組

薬物乱用防止教室の全小・中・高校での実施や、保護者への啓発活動、効果的な指導実施のための教職員研修の充実など、関係機関とも連携しながら、大麻などの薬物乱用防止に向けた取組を推進しています。

不断の改革を進め 飛躍し続ける市立高校

京都の高校教育の発展を目指し、先進的で魅力ある教育を創造します。

市立高校改革

- 市立高校では、普通科はもとより、工学、芸術などの多彩な専門学科を設置するなど、社会の変化を見通した全国に先駆けた学校改革を推進。中でも、堀川高校が、本市高校改革のパイロット校として取り組んできた「探究」の実践と成果は、今や京都はもとより、現行学習指導要領の中核の理念として全国に広がっています。

- 市立高校の存在意義や目指すべき学校像を示した「京都市立高等学校スクール・ミッション」に基づき、市立高校全校で「スクール・ポリシー」を策定。各校では、これらを基に魅力ある教育活動を展開し、高校生が自立した学習者として成長できるような学校づくりに取り組んでいます。
- 大学・企業が集積する京都の強みを活かし、京都ならではの市立・府立高校の連携、高大連携等により、探究学習やSTEAM教育を実践、更には起業家精神を醸成し、グローバルに活躍できる人材を育成します。

市立高校の主な取組

● 府市連携での探究学習の充実

令和6年度、新たに府市連携で高校生の探究学習の充実を図る「京の高校生探究パートナーシップ事業」を導入し、市立・府立高校の垣根を超え、高校生が探究学習の成果発表を通じて交流し、学びをより深める「京都探究エキスポ」を開催（51校、約1,100人が参加）。



京都探究エキスポでの様子
(発表会セッション)

令和7年度、新たに京都ならではの歴史的な文化財（ユニークベニュー）を舞台に、高校生と世界の第一線で活躍する方との交流を通じた少人数による探究学習を実施。

● グローバル人材の育成

グローバル人材としての素地を養う「市立高校グローバルリーダー育成研修」を実施。市立高校生が、海外でのフィールドワークや協働活動など、多様な文化や価値観に触れる探究学習を実施。

令和7年度、海外で探究学習を実践する市立高校生に留学費用の一部を補助する「海外探Q留学」を新たに創設し、府市協調でグローバル人材の育成に取り組む。



海外の教育施設での子どもたちとの交流

● キャリア教育の推進

市立高校と産業界・大学等の連携を推進するための拠点「高等学校コンソーシアム京都」を設置。起業家による講演会やワークショップを行う「ゼロイチ・プロジェクト」やインターンシップへの支援、高校生と経営者が交流する「Joint S&E Forum」の開催など、高校生が学校外の多様な他者と対話する機会を創出し、キャリア意識の涵養に繋げています。

特色ある教育活動

● 西京高校・エンタープライジング科

本市が設置する唯一の中高一貫校として、「進取・敢為・独創」の校是の下、エンタープライジングにあふれた未来社会をリードするグローバルリーダーを育成。

● 京都工学院高校・プロジェクト工学科／フロンティア理数科

文科省「スーパーサイエンスハイスクール」校として、科学・技術・工学・デザイン思考・数学を体系的に学ぶSTEAM教育を核とした教育活動を展開し、科学技術で社会に貢献する人材を育成。

● 堀川高校・人間探究科／自然探究科／普通科

「自立する18歳」の育成を最高目標とし、高校の現行学習指導要領のモデルでもある探究活動を通して、全国をリードする先進的な教育を推進。

● 日吉ヶ丘高校・単位制普通科

校内留学施設「英語村」をプラットフォームに、異文化理解や論理的思考力も含めた国際コミュニケーション能力の向上をはかり、「世界をつなぐ越境者」を育成。

● 紫野高校・普通科／アカデミア科

「ユネスコスクール」加盟校として、国際交流、異文化理解、環境教育の取組を推進し、探究学習を通じて「一歩踏み出すGlobal Citizen」を育成。

● 開建高校・ルミノベーション科

よりよい未来の創造を目指して、自ら考え行動する「協創者」を育成。普通教室4つ分の広さで80名が一斉に学ぶ「L-Pod」を拠点に、「問いから始まる授業」や、地域や大学、企業など多様な他者との対話、協働を中心とした探究学習を実施。

● 文化芸術都市・京都の芸術専門教育

● 京都堀川音楽高校・音楽科

全国で唯一の音楽専門の公立高校として、音楽を愛する生徒一人一人の夢の実現に向け、最高の教育環境の下、「人とつながる音楽家」を育成。

● 美術工芸高校・美術工芸科

「美術『を』学ぶから、美術『で』学ぶ学校へ」をコンセプトに掲げ、教科横断的な学び「BIKOsteAm」や、外部機関と連携した学びを推進。Creator Shipを育み、美術を通して社会に貢献する創造性豊かな自立した青年を育成。

● 多様なニーズに対応する定時制教育

● 京都奏和高校・定時制単位制普通科

4部制の昼間定時制高校として、様々な困りを抱えた生徒たちに対して、少人数教育や専門家の配置等による充実したサポート体制の下、「集団で学ぶ」教育活動を通して、社会で自立する基礎となる力を育成。



西京高校
海外／国内フィールドワーク



京都工学院高校
STEAM「宇宙エレベーター」



堀川高校
探究ポスター発表会



日吉ヶ丘高校
英語村



紫野高校
英語ディベート



開建高校
「L-pod（ラーニングポッド）」



京都堀川音楽高校
卒業演奏会



美術工芸高校
美工作品展



京都奏和高校
Make you smile 探究発表会



市立高校ホームページ
<http://www.kyotocity-hs.jp/>

● 進学・就職実績（令和5（2023）年度卒業生）

- 生徒が自らの将来への一歩として、主体的に進路を選択し、実現しています。
- 全19校の1年制大学現役進学率72.6%（全国平均59.1%）
- 工業高1校・定時制2校の学校あわせ就職内定率100%（20年連続）

障害のある子どもへの教育の推進

インクルーシブ教育の理念に基づく 一人一人のニーズに応じた教育の推進

● 総合支援学校を核としたきめ細かな教育の推進

平成16年4月、国の制度化に先駆け、全国初の「総合制」養護学校（現・総合支援学校）として再編・開校。一人一人のニーズに応じた「個別の包括支援プラン」を活用したきめ細かな教育を推進するとともに、総合育成支援教育相談センター「育（はぐくみ）支援センター」を全9校に開設し、障害のある子ども・保護者への教育相談、就学の相談や小・中学校等へのサポートを行っています。

また、呉竹総合支援学校の再整備、北総合支援学校中央分校の開校、西総合支援学校の校舎増築等、障害の重度・重複化及び多様化に対応する学習環境の整備を進めています。

● 育成学級（特別支援学級）の設置充実

対象となる児童生徒が一人であっても地域の小・中学校に障害種別ごとに育成学級を設置し、一人一人の子どもの障害や発達の状態、特性等に合わせた「個別の指導計画」に基づいた指導を行っています。

● 交流及び共同学習の推進について

総合支援学校・育成学級と普通学級の児童生徒が共に活動することを通じて、社会性及豊かな人間性を育むとともに、障害のある児童生徒の自立や社会参加に向け、学校行事への参加やICTを活用した交流等、児童生徒・保護者の願いを踏まえた「交流及び共同学習」を積極的に進めています。

● 通級指導の充実

発達障害のある児童生徒の指導を行う「LD等通級指導教室」、言語や聴覚に障害のある児童の指導を行う「ことばときこえの教室」、弱視児童への指導を行う「弱視教室」を設置しています。「LD等通級指導教室」については小・中学校132校に設置（設置率は政令市トップクラスの58.1%）しており、経験の浅い教職員に対しては「小中通級支援チーム」によるサポートを行っています。また、高等学校においては、通級指導のほか、「高校通級特別支援チーム」による巡回相談などの取組を進めています。

● 発達障害等支援の必要な子どもへの支援の充実

発達障害等支援の必要な子どもの特性や、幼稚園や保育園（所）等での配慮・支援の情報を小学校に伝える「就学支援シート」事業を、市内全ての就学前施設と連携して実施しています。

また、学習補助や介助を行う「総合育成支援員」を希望する全ての学校・幼稚園に配置するとともに、『授業・学級・学校づくりのユニバーサルデザインチェック表』や『発達の特性等によって困りのある中高生のための指導・支援ガイド』を活用しながら、「個別の指導計画」を必要とする全ての子どもに作成し、支援の必要な子どもへのニーズに応じた指導・支援の充実を図っています。

さらに教職員に対し、大学教授等の外部講師を招き、ICT活用も含めた実践事例を交えた指導・支援方法を学ぶ研修や、外部の専門家が学校・幼稚園に訪問し、指導・助言を行う「学校コンサルテーション」などを実施し、専門性の向上を図っています。

● ICT活用による支援の充実

会話をリアルタイムに文字化できるアプリや、音声と文字を同時再生できる「デージー教科書」、読み書き等を支援する様々な「支援機器・グッズ」、入出力支援装置等の活用など、障害のある子どもたち一人一人の困りに応じた支援に積極的に取り組んでいます。

● 長期病気療養児への教育保障

入院や自宅療養中の児童生徒に対しては、桃陽総合支援学校の本校・分教室での授業や訪問教育を実施するとともに、ICT機器等を活用し、オンラインで他の児童生徒と共に学習・交流するなどの取組を実施しています。また、高校段階の生徒への支援も進め、一定条件の下で在籍校での単位認定を実現するなど、学習機会の確保や治療・復学後の生活への不安解消を図っています。

● 医療的ケアの必要な子どもへの支援

医療的ケア児が増加傾向にある中、地域制総合支援学校においては、看護師免許を持つ医療的ケア（自立活動）担当教員の独自採用や、スクールバスへの乗車が困難な医療的ケア児を対象とした通学支援を実施しています。さらに、各地域制総合支援学校を拠点としたチーム体制による小・中学校等への看護師派遣制度の導入など、より安心安全で安定的な支援体制の構築を進めています。

● 白河、東山及び鳴滝総合支援学校高等部職業学科での職業教育の充実

企業や関係団体と連携し、学校での学習と企業での3年間で約30週間の職場実習を組み合わせた「デュアルシステム」や、地域協働の取組等を通して職業教育を推進し、毎年、高い就職率を達成しています。



北総合支援学校中央分校の開校



入出力支援装置の活用の様子



職業学科での実習の様子